

2 尾北シニアネットの取り組み —会勢拡大と活性化に向けて 奮闘中—

尾北シニアネット ICT勉強サークル代表

平尾 雅生氏

1. はじめに

尾北シニアネットは、愛知県尾張西、北地区を中心に、211名の会員で活動しています。(2017年10月10日現在)

会では、会員が情報技術能力を身につけ、情報技術を通して中高年の生きがいづくり・仲間づくりを推進するため、コミュニケーションの場や、学習教育環境などのプラットフォームを提供するとともに、会員が生き生きとした人間性豊かな生活を営める社会の創造に寄与することを目的とし、主に次のような活動を行っています。

1. ホームページとメーリングリストを通して会員相互の情報交換・親睦
2. パソコン教室及び相談室の開催
3. 自治体からの要請に基づく市民対象のパソコン講習会の開催
4. 会員がそれぞれの興味に応じて、コミュニケーションを図るサークル活動の実施
5. 地域の行政機関との協働を通して社会参加に関する情報発信

2. 尾北シニアネットのあゆみ

2.1 任意団体としてスタート

会が発足したのは2002年で、当時は政府がe-Japan戦略としてIT国家戦略を策定し、高度情報通信ネットワークの形成で、高速インターネットア

クセス網に常時接続可能な環境を整備することを目指した年です。シニア層向けにも情報生涯教育の充実として、継続的にIT講習会が実施され始めた年でもありました。

そんな社会の要請の中、「パソコンを道具として使い、人生を楽しく暮らそう」という人の集まりを目指して2002年1月、地域の新聞に掲載して呼びかけたところ、尾北地区に限らず、遠くの市町村からも多くのシニアの方のご賛同をいただき同年3月31日、任意団体として「尾北シニアネット」がスタートいたしました。

2.2 NPO法人を設立

2003年にはNPO法人格を取得して事業の拡大を目指しました。組織の規模は順調に拡大し、パソコンの勉強サークル、デジカメサークル、趣味のサークルが次々と生まれ、それぞれのサークルが活発に楽しく活動するに至りました。対外的には行政の主導するIT講習会の運営や各種行事への参加、様々なボランティア活動に参加し、社会参加型の活動を積極的に進めてまいりました。

2.3 初期の頃の会員向けパソコン講習会

当時のウィンドウズのバージョンは、Windows XPでしたが、それ以前のバージョンも混在する中、試行錯誤しながらWord、Excelを中心に会員向けのパソコン講習会を開催しました。講習会への会員のニーズは高く、講座数を増やすために講師養成は急務でした。そんな中、役員を中心に自ら講師役を担うためスキルアップに励みました。新しい知識や能力を主体的に獲得していくことにより人材が育成され、ICTを通して地域貢献活動を展開していくための基礎が築かれました。

2.4 自治体からの要請で市民向けIT講習会

当初は行政である愛知県江南市が主催する市民パソコン講座に当会から講師を派遣する方法で進んでおりましたが、その後江南市生涯学習課よ



写真1 設立総会



写真2 初期の頃のパソコン講習会

り、それらの企画から開講までの業務を年間18講座（Windows、Word、Excel基礎講座）受託するに至りました。

そこで得られた委託料収入は、会員が納めていただく会費とともに会の運営において貴重な財源となりました。

2.5 念願の事務所開設

発足から2年目に、念願の自前事務所（ふれあいプラザ）を構えることができました。

普段はメーリングリストで会

員同士の交流を図っている会でも、やはり皆が顔を揃えて話し合える、勉強し合える場所が必要です。

会員数も増えたことによる会費収入増や会員向けの有償パソコン講座、行政より請け負った講習会などの委託料収入も増加したこともあり、活動拠点が開設できました。そしてそのことが会員増につながるといった好循環が生まれていきました。



写真3 事務所開設

2.6 最盛期の通常総会模様

通常総会は江南市民文化会館小ホールで開催。

会員数も増加の一途をたどり、毎年の通常総会は大勢の会員の方々の参加をいただき、盛大に開催されるようになりました。総会後の懇親会パーティーは、ゲストを迎えた余興などで大盛り上がりでした。



写真4 通常総会-1



写真5 通常総会-2



写真6 通常総会-3

2.7 社会参加とボランティア活動

毎週土曜日に開催する市民向けパソコン初心者無料相談会、協働事業として行政外郭団体のホームページ更新などを実施しています。

特にパソコン初心者相談会は毎回、大勢の市民の参加を得ており、地域の人から信頼される団体として認められ、相談員も大変やりがいを感じています。

また、自治体が開催する消費生活展や環境フェスタなどにも積極的に参加し、会の認知度を上げていきました。

2.8 江南市消費生活展へのボランティア参加

江南市民文化会館に於いて市民の消費者意識を向上させ、健やかで豊かな消費生活の促進を図る目的として「江南市消費生活展2007」が開催され、私たち尾北シニアネットも江南市のNPO法人を代表して参加しました。

尾北シニアネットは、パソコンを持ち込み、オートシェイプの実演、講習とパソコン相談を実施し、パネルコーナーには、PCアート、レタッチ作品、オートシェイプ作品、デジカメ写真等を展示し、訪れた皆さんからは感嘆の声が上がっていました。

プロジェクターでは、スライドショー形式で尾北シニアネットの活動状況を紹介しました。



写真7 江南市消費生活展へ参加

2.9 環境フェスタへのボランティア参加

「みんなで創ろうエコのまち江南」を合言葉に、江南市と市民でつくる環境フェスタ江南実行委員会主催の「環境フェスタ江南2007」が「すいとぴあ江南」で開催されました。会のブースは、Tシャツに本人の顔写真をプリントしたり、希望者に名刺を印刷して差し上げるサービスを行い、大変好評でした。



写真8 江南市環境フェスタへ参加

3. 最盛期の活動内容

地域社会で様々な活動を行っていく中で会としての認知度も上がり、新規入会者も増えていき、ピーク時の会員数は330名を超えるまでになりました。

パソコンを使って仕上げた写真や水彩画等の文化展や、講師を招いての講演会など、活動は幅を広げていき、写真やゴルフ、ウォーキングなど趣味の同好会活動や撮影会を兼ねた親睦旅行、大忘年会などのイベントを通して仲間同士の輪も広がっていきました。

会のメーリングリストを活用することにより、活発な会員同士の交流ができるようになり、また自ら情報を発信することも容易になり、生涯学習に対する意欲はさらに高まりました。

3.1 総合文化展の開催

日頃の勉強会の成果を発表する目的で総合文化展を開催しました。



写真9 総合文化展－1



写真10 総合文化展－2

2010年の総合文化展は、オフ会、サークル、PC塾受講者、また一般会員の方々からも多くの作品が寄せられ、出品者人数が142名、作品数が169点となり、見ごたえのある文化展となりました。

3.2 大忘年会の開催

大勢の参加をいただき、大変盛り上がった催しで、皆さん和気あいあいの忘年会となりました。



写真11 大忘年会

3.3 親睦旅行

秋の親睦旅行のメインは、復元された平城宮跡の見学でした。

皆さんは大極殿から平城宮跡を見学し、次に、奈良公園内の「菊一文珠四郎包永」で昼食を取った後、公園内の散策、さらに、橿原神宮を参拝してきました。大変有意義な楽しい秋の遠足でした。



写真12 親睦旅行

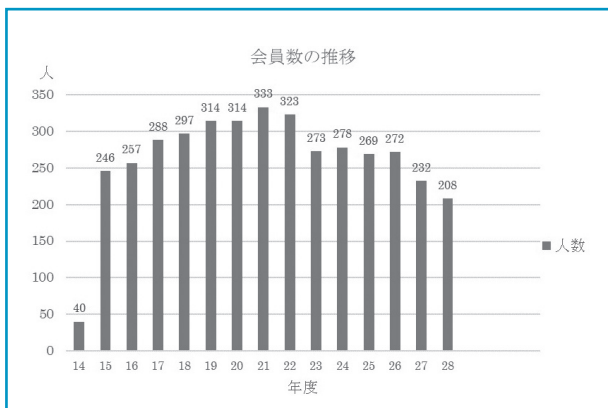
4. NPO法人の解散と活動拠点の閉鎖

会の創設から10年目を迎えて、会員の高齢化が進み（平均年齢75.5歳）残念ながら会員数は年々減少を続け、また人材の補給不足も重なり、複数年役員を続けられない事態が生じ、会運営上の大きな課題となりました。

2012年には「パソコンを道具としてシニアライフを楽しもう」という趣旨で無理のない楽な会の運営にしようと、各サークルの代表者が世話役となって運営できる「任意団体」として再出発することになりました。

また、会の活動拠点となっていた「bsプラザ」も運営担当役の人員不足、経費節減等の理由から閉鎖することとなりました。

常時、会員が集うことができるサロンとしての活動場所を失うことは、会の運営面でもダメージを受けます。やはりシニアネットには気軽に立ち寄れる場所が必要だと考えます。



図表1 会員数の推移表

5. 活性に向けての取り組み

このような現状を「何とかしなければ」ということで、役員を中心に以下を重点項目として会の活性化に取り組むこととなりました。

- 人材の育成
- スマートフォン・タブレットの勉強会新設
- 財政改善のための事業発掘

5.1 人材の育成（シニア情報生活アドバイザーの養成）

会内には既に3名のシニア情報生活アドバイザー資格の有資格者がおりました。

会の活性化のためには、まず人材の育成が必要との観点から、シニア情報生活アドバイザー養成団体の認定を受けることから始まり、本年7月に初のアドバイザー養成講座を開講し、新しく2名のシニア

情報生活アドバイザーが誕生しました。今後も定期的に養成講座を開講すべく検討中です。



写真13 シニア情報生活アドバイザー養成講座

5.2 スマホ・タブレット勉強サークル「スマイル」設立

2010年にアップル社よりタブレット端末（iPad）が発売されました。

会では、画面を指で触れるだけで今までのパソコンと同じようなことができ、初心者でもすぐに操作できるというインターフェースがシニアにとってなじみやすく、持ち運びに便利で操作がしやすく、そしてパソコンの操作を習得するよりも短期間で覚えられるという特性に注目して、地道な研究を重ねてきました。

シニアネット内に「スマホ・タブレット勉強サークル」を立ち上げたところ、あっという間に30人近い入会者があり、結果的に会員の増加にも結びついています。

ある会員の話です、「娘や孫にメールで連絡しても、なかなか返事が返ってこないが、LINEで送るとすぐに反応がある。私ら年配者が使い方を覚えて、若い人の生活習慣に合わせてあげる努力が必要かな？」（各デバイスのOSは問わないので、アンドロイドを持ち込まれる方もおられます。多種多様の端末で、運営面では難しい面はありますが将来に向けて



写真14 スマホ・タブレット勉強サークル

の財産として研究し合っています)

やはりスマホ・タブレットに対するニーズは高いようです。

この分野でも人材の育成が急がれます。

5.3 財政改善のための事業発掘

シニアが新しい情報機器を利用する上での困りごとは、興味があっても使い方がよくわからない、身近に相談できる相手がいない、教えてもらってもすぐ忘れるなどです。

地域行政サービスも電子情報化の時代になりつつあり、生活の中でもICTの利活用の機会が増え、情報の収集だけではなく、SNSなどを使って自ら気軽に情報を発信できる時代になりつつあります。

シニアネットには、今後ますます地域コミュニティの中で、社会参加、社会貢献する活動が求められていると考えます。

私たちの事業は大きく分けて会員向けの事業と市民向け事業に大別できますが、これらの事業を進めていく上で、いろいろな問題点もあります。その一つが事業推進のスタッフ不足です。

今の社会環境では60歳定年後直ちに「悠々自適」とはいかない状況にあるようで、60歳代前半の方の入会が少ないのが現状です。何とか若い会員を増やし、次世代のリーダーを育成しなければなりません。

次に資金面です。現在の会の収入源は会費と、市民向け・会員向けパソコン講座の受講料が大半を占めます。そのうち会員向けパソコン講座は近年受講者が減少傾向にあります。

会員のニーズに合った新しい講座で受講者を増やさなければなりません。とりわけ外部からの収入を増やすべく新規事業の開拓が重要であると考えます。

特に、シニア情報生活アドバイザーの養成団体としてアドバイザーが活躍できるフィールドの開拓が急務です。

行政、教育機関、市民活動団体、事業者などとの協働を通して、養成した人材の活躍の場を提供できるような活動を行っていくことを目標とします。

高齢者は行政が関わっていると安心します。市民協働のまちづくりのため、協働・市民活動スペースの提供など、行政からの政策的な支援を大いに期待するところであります。

筆者の私見ですが、パソコン、スマートフォン、タブレットのOS (Windows、Android、iOS) はバージョンアップする度に、それぞれの優れた機能を取り入れて徐々に歩み寄りつつあるように感じます。

近い将来にはAI技術がそれらの違いをなくして、あらゆる情報機器を誰でも簡単に扱えるようになると思います。それまでの間、シニア情報生活アドバイザーとして、情報社会がもたらす恩恵をシニア層でも享受できるように、地域のICT活用の案内役としてサポートしていきたいと考えます。

6. あとがき

ニューメディア開発協会より原稿執筆の依頼を受けた時は、今では他団体のように発表できるような輝かしい活動を行っていないこともあり躊躇しましたが、同じような課題に直面している全国のシニアネットの参考になればと考え、思い切ってお受けしました。

このような機会をいただいたニューメディア開発協会へ感謝の意を表します。